愛知県総合教育センター研究紀要　第 111 集（令和３年度）

実践報告２

Small Talk から始めるやり取りの評価について

―指導と評価の一体化を目指して―

愛知県立岩倉総合高等学校　教諭　藤本　貴之

１　はじめに

平成 30 年に改訂された高等学校学習指導要領では，「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うと同時に，学習評価の充実について新たに項目が置かれ，授業改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示されている(国立教育政策研究所教育課程センター,2021)。また，高井・岡崎(2019)は“パフォーフォーマンス評価は学習者に「何ができていて，何ができていないのか」について気づきを与える機会となる”と述べている。生徒に明確な目標を示すことで，生徒は何をどのように学習したらよいか自ら見通しを立てて，教師のサポートを得ながら，主体的に学習に取り組む。目標に応じた評価が行われることで，生徒はその評価の結果を受け，次への具体的な学習改善につなげていくと考えられる。

しかしながら，国立教育政策研究所教育課程センター(2021)は，評価が学期末や学年末の事後の評価で終始してしまい，“状況によっては，評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながっていない”と指摘しており，未だに指導と評価の一体化を目指す授業改善が行われていないと考えられる。

このような現状の中で，外国語科の授業の中で，スピーキング能力を育成する授業とその学習評価を確立することが大切である。本研究では，コミュニケーション英語Ⅱにおいて，「話すこと［やり取り］」に焦点を当て，その学習到達目標を定め，学習評価の妥当性や信頼性を高めながら，指導と評価の一体化を目指すことで，(ア)パフォーマンス評価によって自分の成長を実感することができるか，また，(イ)パフォーマンス評価によって新たな課題を見つけることはできるのか，そして，(ウ)パフォーマンス評価によって得られた新たな課題を次につなげることはできるのか，明らかにしていきたい。

２　言語活動

(1) 教材

ア　教科書：New Flag English Communication II　（増進堂）

イ　単　元：Chapter 4　Communication Breakdown（７月）

Chapter 7　Palm Oil from Diamond Island（11 月）

(2) 単元の目標

ア　Chapter 4

登場人物のそれぞれの立場を認識し，各人の心情について理解させ，その違いを読み取ることができる。

イ　Chapter 7

ダイヤモンド島でどのような問題が起きているのかを理解させ，異なった立場の人々のそれぞれの考え方について理解することができる。問題解決を図る際に，より適切な方法を自ら考え出すことができる。

３　関係する領域別目標（学年のＣＡＮ－ＤＯ）

聞くこと	・身の回りのことについて関する紹介や報告，対話や討論などゆっくり話されていれば，情報や考えなどの概要を捉えることができる。 ・何が話題とされているかを理解し，情報や考えなどの要点を理解することができる。
読むこと	・説明，評論，物語，随筆などを読んで，概要を捉えることができる。 ・友人が書いた文を読むことができる。
話すこと［やり取り］	・身の回りのことについて聞いたり読んだりしたことについて，理由を加えながら，意見交換をすることができる。 ・与えられた話題について，複数の質問をしながら，即興で３分程度話し合うことができる。
話すこと［発表］	・身の回りのことについて聞いたり読んだりしたこと，学んだり経験したりしたことに基づき，情報や考えなどについてまとめ，理由を加えながら，２分程度発表することができる。 ・自分の考えを，ポスターなどを使いながら，発表することができる。
書くこと	・身の回りのことについて，理由を加えたり，つながりを示す語句を用いたりしながら，即興で 80 語程度の文章を書くことができる。 ・身の回りのことについて聞いたり読んだりしたこと，学んだり経験したりしたことに基づき，情報や考えなどについて，200 語程度でまとまりのある文章を書くことができる。

４　評価規準（話すこと［やり取り］評価規準の設定）

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと［やり取り］７月	**＜知識＞** 自分の意見や主張を伝えるために必要な語彙や表現を理解している。 **＜技能＞** 自分の意見や主張を伝えるために必要な語彙や表現を使っている。	・与えられた話題について，Fillers，Rejoinders，Shadowing，Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で２分程度話し合いをしている。	・与えられた話題について，Fillers，Rejoinders，Shadowing，Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で２分程度話し合いをしようとしている。
話すこと［やり取り］11月	**＜知識＞** 情報や考えを述べるために必要となる語彙や表現，音声等を理解している。 **＜技能＞** 身近な話題（自分のお気に入りのもの）や社会的な話題（環境問題）について聞いたり読んだりしたことについて，理由を加えながら，伝え合う技能を身に付けている。	・自分の意見を相手によく理解してもらえるように社会的な話題（環境問題）について聞いたり読んだりしたことを活用しながら，伝え合っている。 ・与えられた話題について，Fillers，Rejoinders，Shadowing，Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で２分半程度話し合いをしている。	・自分の意見を相手によりよく理解してもらえるように社会的な話題（環境問題）について聞いたり読んだりしたことを活用しながら，伝え合おうといている。 ・与えられた話題について，Fillers，Rejoinders，Shadowing，Follow up questionsを適切な場面で使いながら，即興で２分半程度話し合おうとしている。

５　言語活動を中心とした指導と評価の計画

学習活動と目標	評価の観点			指導上の留意点 評価規準（評価方法）
	知	思	主	
【学習活動】 Small Talk 【目標】 ・身近な話題について聞いたり読んだりしたことを，理由を加えながら，意見交換することができる。 ・与えられた話題について，質問を複数しながら，即興で３分程度話し合うことができる。 ・社会的な話題（環境）について，質問を複数しながら，即興で３分程度話し合うことができる。		○	○	・後日行うパフォーマンステストに向け，ルーブリックを事前に見せ，「帯活動」で，身近な話題に関する「話すこと［やり取り］」の言語活動（Small Talk）に取り組ませ，　相手の話に関わらせたり質問したりさせる。

６　パフォーマンステスト

(1) 実施方法

ア　Small Talk

本校で実施している Small Talk とは, 生徒同士で決められた話題について即興で話す活動である。週に１回又は２回程度，授業のはじめに帯活動として図１のトピックについて２分間２回ペアを変えて同じトピックについて会話をする。パワーポイントで図２のようにトピックだけでなく，質問文を表示し，回をこなすごとにパワーポイントの表示内容を減らし，３回目には見ないで会話ができるように促していく。

この帯活動を基にパフォーマンステストとしてスピーキングテストを実施する。

Food	Animal	Music
People	Season	Sport
Subject	Hobby	Place
Movies	Country	

【図１　Small Talk に使用するトピック】

Food

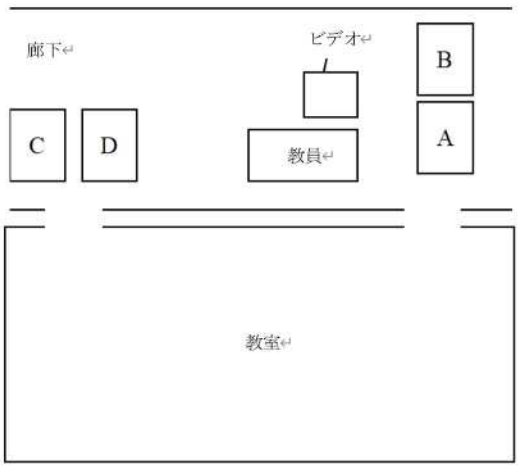
- What food do you like?
- When do you want to eat it?
- What food do you dislike?　Why?

【図２　Small Talk で使用するパワーポイント】

イ　Speaking Test

スピーキングテストを行う一週間前にルーブリックを配付し告知をする。スピーキングテストは，即興で行うことを目指し，その場でペアとトピック決めて行う。図３はその場面を図式化したものである。最初にくじ引きにより選ばれた生徒Ａ，Ｂが Speaking Test を受け，次に呼ばれた生徒Ｃ，Ｄが生徒Ａ，Ｂの Speaking Test の様子を見ることができるように廊下で待機する。生徒Ａ，Ｂが終わり，次の二人が呼ばれる流れとなっている。教室では，期末考査に向け，自習をしている。

【図３　スピーキングテスト配置】



(2) 指導上の留意点

Small Talk では，２分間会話を続けることができるように，会話の流れに合う質問を四つか五つさせる必要がある。そのために，生徒の観察を注意深く行い，困っている生徒に対して，質問例を板書しながら支援する必要がある。生徒が同じような文法間違いをしている場合には，その文をそのまま板書し，１回目又は，２回目の会話の終了時に全体に生徒に何が間違いなのか考えさせ，共有することが大切である。

7　ルーブリック

表１はスピーキングテストに使うルーブリックである。このルーブリックは，スピーキングテストの１週間前に生徒に配付し，テスト当日に回収し，採点の際に使われるものである。本校の第２学年では，学年のＣＡＮ－ＤＯにもあるように３分間話し合うことが目標となっているが，テストを行っていく中で，目標を変えながら，学年末に３分を目指すこととしている。そのため，今回のスピーキングテストでは２分となっている。２分間話そうと挑戦することを大切にしていきたいというねらいから，「正確さ」よりも「なめらかさと内容」に得点が高く割り当てられている。また，会話を補助する働きのある「会話方略」の使用を促すためにその得点も高く設定されている。また，11 月のスピーキングテストでは，目標時間を２分から２分半に変更したものを配付した。

【表１　定期考査で用いる Speaking Test のルーブリック】

Categories	Criteria	Points
Fluency & Content なめらかさと内容	２分以上なめらかに話すことができ、工夫して適切な内容を伝えようとすることができる。	7（なめらかに豊な内容で続けられた） 5（２、３回止まるが適切な内容で続けられた） 3（時々止まり、内容が乏しい） 2（うまくできなかった） 1（沈黙が長く、できない）
Delivery(volume & eye contact) 態度（声の大きさとアイコンタクト）	アイコンタクトをとりながら、相手に聞こえる声で積極的に話そうとすることができる。	3（十分な声量でアイコンタクトができた） 2（声量やアイコンタクトが十分にできない） 1（声量が小さくアイコンタクトがあまりできない）
Accuracy 正確さ	文法や単語の発音を間違えることなく、適切に話すことができる。	3（それぞれの文に間違いが２個以内でよく伝わる） 2（それぞれの文に間違いが３つ以上あるが伝わる） 1（それぞれの文に間違いが多くあり、わかりにくい）
Conversation Strategies （会話方略）	Fillers・Rejoinders・Shadowing などを適切な場面で積極的に使うことができる。	3（３回以上適切に使った） 2（２回しか使っていない） 1（１回しか使っていない） 0（使っていない）
	Follow-Up Questions **定型文以外でその場で考えた質問をすることができる。**	4（定型文以外で適切な質問が４回できた） 3（定型文以外で適切な質問が３回できた） 2（定型文以外で適切な質問が２回できた） 1（定型文以外で適切な質問が１回できた） 0（使っていない）

８　実践報告

(1) 実践の内容と検証方法

表２は年間の考査とスピーキングテストの実施計画である。スピーキングテストは，それぞれの学期の最後に行うため，一年で３回行うことになる。今回の研究は，本校の第２学年の２クラス（合計 75 人）を対象に実施した。7 月と 11 月にスピーキングテストを行った後に生徒は One Page Portfolio Assessment（谷戸 et. al，2012）という振り返りシート（**付属資料**）を記入し，その振り返りからどのような生徒の気付きがあったのかまとめていく。

【表２　考査とパフォーマンステストの実施計画】

月	考査	Speaking Test	Writing Test
4 5	中間考査		考査で実施
6 7	期末考査	２分 身近な話題	
9 10	中間考査		考査で実施
11 12	期末考査	２分 30 秒 社会的な話題（環境）	考査で実施
1 2	学年末考査	３分	考査で実施

(2) 実践の結果

ア　７月の結果

表３は，７月にスピーキングテストを実施した後に話すことについて生徒が答えたアンケートの集計を人数で表したものであり，図４はそれを割合で示したものである。半数以上の生徒が２分以上話すことができたと答える一方で，もっとできたと答える生徒も３割近くいたことが分かる。

【表３　振り返りシート：話すことについての振り返り（単位：人）】

４：ほぼ止まらずに２分以上話せた	３：時々止まるが２分以上話せた	２：止まってしまいもっとできた	１：うまくできなかった	N
7	40	18	4	69

【図４　振り返りシート：話すことについての振り返りを割合で示したもの】

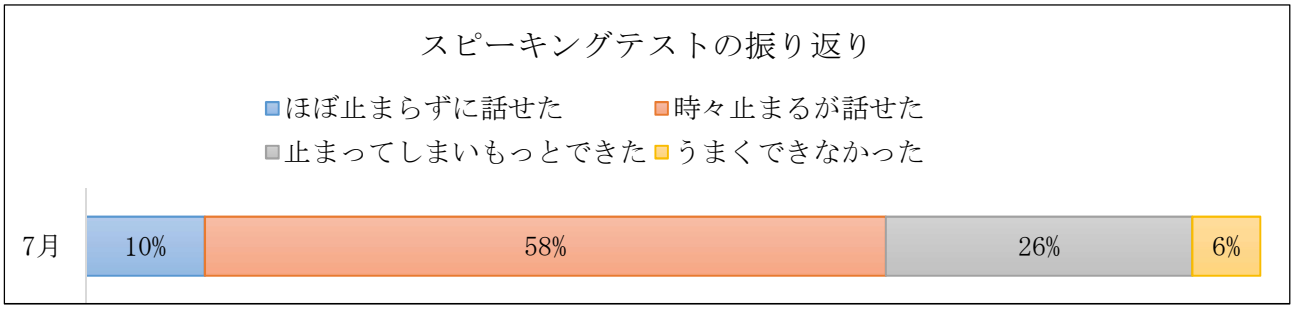


表４はアンケートで，「ほぼ止まらずに２分以上話せた」と答えた生徒が，「４月から英語を話すことにどのような成長がありましたか」について答えたコメントをそのまま載せたものである。「理解できる」や「気持ちを言葉にできる」など，自分が以前と比べて何ができるようになっているのかを実感している様子が分かる。

【表４　振り返りにおける英語力の成長に関するコメント：ほぼ止まらず話した生徒】

- 基本文以外の質問もできるようになったし，相手の言ったことをほとんど理解できるようになった。
- 自分の気持ちを言葉にできるようになった。文法や簡単な言葉を使って話す 話すことばかり考えていたけど 何回も会話の練習をして誕生日や自分の思っていることを単語だけでも相手に伝えられるようになった。
- 使える英語が増えて楽しく英語が使えるようになった。 心から英語を楽しめるようになった。
- 昨年よりも使える Rejoinders の種類が増えた。前までは相手からの質問に答えられないことがあったけれど，その回数がかなり減った。ほぼ止まらずに会話を続けられるようになった。相手が答えやすい質問が思いつきやすくなった。Shadowing を自然に使えるようになった。
- 相手の目を見て，恥ずかしがることなく，しゃべれるようになった。
- That's good! や Really? というだけでなく話しているトピックについて付け足しで Do you like ～? や When do you ～ ? などと，質問することが少しできるようになりました。
- 以前と比べると Rejoinders で会話が静かにならないようにどうすればいいか分かった。

表５は，アンケートで「うまくできなかった」と答えた生徒が，「４月から英語を話すことにどのような成長がありましたか」について書いたコメントをそのまま載せたものである。アンケートの選択項目では，「うまくできなかった」を選んでいたが，コメントを見てみると，「英語が好きになって」や「話せるようになった」「短い質問をたくさんするようになった」と自分の成長を感じられていることが分かるコメントがあった。

【表５　振り返りにおける英語力の成長に関するコメント：うまくできなかった生徒】

・昔より英語が好きになってきて英語を話すことが楽しいと思えるようになってきた。でも，昔嫌いだったので単語を全然覚えられていなかったのでもっと勉強したらもっと楽しくなると思っています。 ・少し人と話せるようになった。 ・授業でのスピーキングの時間では，文法が不安なときはできるだけ短い質問をたくさんするようになった。使い勝手のよい幾つかの相づちを挟むようになった。

表６は，アンケートで「ほぼ止まらずに２分以上話せた」と答えた生徒が「もっとこうすればよかったと思うこと」について書いたコメントである。「少しずつ難しい単語を覚えて」や，「もっと深く理由を述べることができたらよかった」など，次のスピーキングテストに向けて何をしたらよいか，明確に振り返ることができている。また，「授業内で練習するときから自分で考えた質問を使って定着させておけばよかった」と授業の中でどのようにしておくべきだったのか振り返ることができている。

【表６　振り返りにおける反省点に関するコメント：ほぼ止まらず話した生徒】

・基本的な会話はできていたと思うので，これから少しずつ難しい単語を覚えていき，レベルを上げていきたいです。 ・もっと語彙力をつけてから挑みたかった。知らない単語とか文法をなくしてからやりたかった。 ・一つの話題に対してもっと深く理由を述べることができたらよかった。伝えたいことは伝えられたけど，文法をしっかり使って分かりやすく使えることができればもっとスムーズに会話ができたと思う。感情に任せて喋りすぎてしまった。 ・ もっと質問文を考え相手のレベルに対応できるように会話したいと思った。 ・ 好きな食べ物を聞いた後に，他にも好きなものがあるかを聞いたりして，会話をつなげられたりしたらよかったなと思いました。 また Fillers を使う回数が他に比べて少なかったと思うので上手に使えるようにしていきたい。 ・ テストになると考えていた質問を忘れてしまったので授業内で練習するときから自分で考えた質問を使って定着させておけばよかった。また，Fillers があまり使えなかったのでもっと使う練習をしておけばよかった。 ・ 相手の言ったことについて質問をもっとすればよかった。相手が間違えたときにサポートをすればよかった。

また，表７は「うまくできなかった」と答えた生徒が「もっとこうすればよかったと思うこと」で書いたコメントであるが，こちらでも，「単語をもっと覚えておけばよかった」や，「質問に答えて相手にも聞き返すなどができるとよかった」など，次回のスピーキングテストに向けて新たな課題を自ら気付くことができている。

【表７　振り返りにおける反省点に関するコメント：うまくできなかった生徒】

・例文（質問文）の暗記。 ・会話でよく使われる単語をもっと覚えておけばよかった。止まっているときや考えて言うときに Fillers を使うべきだった。Rejoinders を適切に使えるように毎回の Small Talk で身に付けておけばよかった。 ・練習では，自分が答える側ばかり，質問する側ばかりでやっていたので，質問に答えて相手にも聞き返すなどができるとよかったです。時間が余って焦ってしまったのでもう少し質問の量を増やしたいです。

イ　11 月の結果

表８は，７月と 11 月にスピーキングテストを実施した後に，話すことについて生徒が答えたアンケートの集計を人数で表したものであり，図５はそれを割合で示したものである。７月では，「ほぼ止まらずに話せた」が 10%であったのに対し，11 月では 20%に増加している。また，「止まってしまいもっとできた」が７月では 26%だったのに対し，11 月では，13%と減少している。

【表８　振り返りシート：話すことについての振り返り（単位：人）】

	４：ほぼ止まらずに話せた	３：時々止まるが話せた	２：止まってしまいもっとできた	１：うまくできなかった	N
７月	7	40	18	4	69
11 月	14	43	9	3	69

【図５　振り返りシート：７月と 11 月の話すことについての振り返りを割合で示したもの】

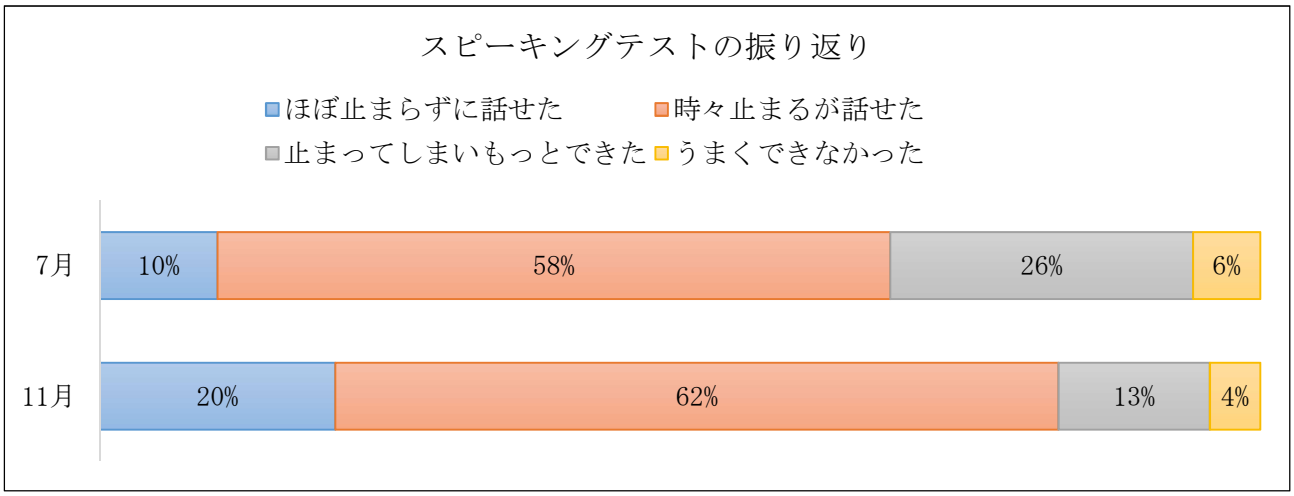


表９は，振り返りの「話すこと」について数値が上がった生徒（例：「３→４」は７月には３を選び，11 月には４を選んだことを示している）の振り返りのコメントを抽出して，７月と 11 月に分けて載せたものである。７月に行われたスピーキングテストの振り返りと比べて，今回のスピーキングテストではどうだったのか振り返ることができている。例えば，７月では，「とても緊張してきて，覚えたものを忘れてしまった」と答えた生徒Ａは，11 月では「とても緊張したけど，自分の覚えたことを忘れずに言えた」と答えている。また，７月の「相手の言うことに反応していろいろ言うことができればよかった」という生徒Ｉの振り返りが，11 月には「少しは，自分で考えて喋れるようになったと思う」と変化しており，７月の振り返りを 11 月のスピーキングテストに生かしている様子が分かる。

【表９　振り返りの「話すこと」において数値が上がった生徒】

		7 月	11 月
生徒Ａ	３→４	先生の前に立ったらとても緊張してきて，覚えたものを忘れてしまった。	とても緊張したけど，自分の覚えたことを忘れずに言えた。
生徒Ｂ	３→４	特に大きな成長はない。でも使えるようになった定型文は増えたと思う。怖くてあまり話せなかった人とも，ペアワークのローテーションで話す機会ができて話せた。	クラスの友達が増えたこともあり，誰がペアになっても大丈夫と思えるようになった。通じると楽しいと思えるようにもなった。
生徒Ｃ	３→４	I see. などの相づちをもっと増やしたり，Let me see. などの Fillers を増やしたりて会話の空白を埋めたりするとよかった。	（授業内で）ペアの子と何度も I see. などの相づちを練習した。７月にやったスピーキングテストよりは確実に話すスピードやハキハキ話すことがよくなったと思う。これを続けていきたい。
生徒Ｄ	３→４	相手の答えについてもっと深掘りするような質問をたくさんすればよかった。	難しい会話でも相手の言っていることをちゃんと理解でき，それに対して質問もできるようになったのでちょっと余裕を持てるようになった。
生徒Ｅ	３→４	最初の方は少し詰まってしまったりしたのでもっとスラスラと言えるようにしたかった。	相手が急にしてきた質問でも質問に合った答えを返すことが少しできるようになってきたと思う。
生徒Ｆ	２→４	自分から積極的に話していたら，止まることがなかったなと思ったので事前に質問を考えればよかった。１年生のときよりも授業が好きなったのでこれからもキープしつつ伸ばしていきたいです。	４月から日が経つにつれてすぐに言いたいことを英語で思いつくことができるのが成長したかなと思います。前回のスピーキングテストよりもスラスラと話せるようになったし，英語で話せるとさらに楽しいということが分かりました。
生徒Ｇ	１→３	もうやりたくない！！	授業の Small Talk で何回も同じのをやったので，家で覚える必要がなく楽だった，６月よりもだいぶ成長したと思います。
生徒Ｈ	１→３	会話でよく使われる単語をもっと覚えておけばよかった。	前より文で話せるようになってきているのでこれからもがんばっていこうと思います。
生徒Ｉ	１→２	積極的に自分から言えるようにすればよかった。相手の言うことに反応していろいろ言うことができればよかった。	少しは，自分で考えて喋れるようになったと思う。

表 10 は，　11 月の振り返りで，「話すこと」について７月よりも数値を低く選択した生徒のコメントである。前回できていたことが今回はできておらず，点数を低く選んでいることが分かる。

【表 10　振り返りの「話すこと」について数値が下がった生徒】

		7 月	11 月
生徒Ｊ	３→１	緊張してなかなか質問が思い浮かばなかったけど，自分の考えた質問ができて練習の成果が出せて嬉しかった。	書いたことを思い出すのに必死になっていたから暗記じゃなくて自分の考えをすぐに言葉にできるようにしたかった。

生徒Ｋ	３→１	自分の気持ちを言葉にできるようになった。文法や簡単な言葉を使って話すことばかり考えていたけど，何回も会話を練習して，感情や自分の思っていることを単語だけでも伝えられるようになった。	質問をできるだけする，相づちをするということばかり考えていたため，自分の意見が緊張してうまくできなかった。自分の意見を覚えていなくても伝えられるようにしたい。

(3) 考察・分析

ア　パフォーマンス評価によって自分の成長を実感することができるか。

今回のスピーキングテストでの目標は，２分間身近な話題について話すことであったが，２分以上話せた生徒が 68%であった。また，表４から分かるように，「ほぼ止まらずに２分以上話せた」と答えた生徒のコメントに，「理解できるようになった」「気持ちを言葉にできるようになった」などの記述があり，何ができるようになったか明確に答えられている。また，表５の「うまくできなかった」と答えた生徒のコメントから，「もっと勉強したらもっと楽しくなる」や「人と話せるようになった」などと，こちらも何ができるようになったかや，どうすればできるようになるかについて書かれていた。これらのことから，パフォーマンス評価は，生徒がどの程度スピーキングテストができたかに関係なく，どの生徒にとっても，自分は何ができるようになったのか実感を与える機会となると考えられる。このことは，上述の“パフォーフォーマンス評価は学習者に「何ができていて，何ができていないのか」について気づきを与える機会となる(高井＆岡崎，2019)”ということからも，パフォーマンス評価を行うことで，日頃の授業でやってきた生徒の学習がどの程度できるようになったか自覚することができるようになると言える。

イ　パフォーマンス評価によって新たな課題を見つけることはできるのか。

「ほぼ止まらずに２分以上話せた」と振り返った生徒のコメント（**表６**）から，「これから少し難しい単語を覚えていき，レベルを上げたい」や「もっと深く理由を述べることができたらよかった」など，自分の何が不足しているか，次に向けての課題は何かを見つけ出すことができている。さらに，表７の「うまくできなかった」と答えた生徒のコメントからも，「例文（質問文）の暗記」や「会話で使われている単語をもっと覚えておけばよかった」，「もう少し質問の量を増やしたい」など，自分のスピーキングテストまでの取組を振り返り，新たな課題を見つけることができている。さらに，「授業内で練習するときから自分で考えた質問を使って定着させておけばよかった」と授業の中でどうしておくべきだったか振り返ることもできている。即興性を求められる今回のスピーキングテストでは，短期間で何かを覚えておくだけでなく，練習してきたことがどの程度発揮できるかが問われている。そのため，日頃の授業でできるようにしておくことが求められている。国立教育政策研究所教育課程センター(2021)が述べている，評価が学期末や学年末の事後の評価で終始してしまい，“評価の結果が生徒の具体的な学習改善につながっていない”という指摘からも，パフォーマンス評価を行うことで，授業でやっていることが評価され，生徒が自ら自分の学習について振り返り，新たな課題を見つけ出す持続的な学習活動を行っていくことができると考えられる。

ウ　パフォーマンス評価によって得られた新たな課題を次につなげることはできるのか。

図５より，生徒が自分の話す力について向上していると感じていることが分かる。表９より，２から４に上がった生徒Ｆは，７月に「自分から積極的に話していたら，止まることがなかったなと思ったので事前に質問を考えればよかった。１年生のときよりも授業が好きなったのでこれからもキープしつつ伸ばしていきたいです」と振り返り，11 月には，「４月から日が経つにつれてすぐに言いたい

ことを英語で思いつくことができるのが成長したかなと思います。前回のスピーキングテストよりもスラスラと話せるようになったし，英語で話せるとさらに楽しいということが分かりました」と振り返っている。このようなコメントから，生徒は７月に「何ができて，何ができていないのか」明確にすることができ，そのことについて授業で取り組んだと考えられる。そして，11 月の振り返りで，できるようになったと実感している。パフォーマンス評価によって得られた課題を，次のパフォーマンス評価に生徒が自らつなげようとしている姿がここに現れている。

(4) 終わりに

今回の実践は，７月には，身近な話題を扱い，11 月には社会的な話題である環境問題を扱った。身近な話題よりも，社会的な話題の方が生徒にとって難しい話題であろう。そして，７月では２分間だったが，11 月では 2 分 30 秒間のスピーキングテストを行っている。テーマと時間がより高度なものとなっているが，生徒の話すことについての意欲は向上していた。身近な話題から社会的な話題に発展させる橋渡しとしても日頃から生徒が英語を使ってコミュニケーション活動を即興で行う Small Talk が重要だと考えられる。今回の研究では，評価のことが焦点となっていたが，学習指導要領では日々の授業改善も求めている。生徒が英語を実際に話すコミュニケーション活動をまずは日々行うことが最低限必要なことであり，そこに効果的な評価を行うことで，さらなる授業改善が期待できるのだと考える。

９　参考文献

・文部科学省（2018)『高等学校学習指導要領（平成 30 年７月)』

・髙井一雄・岡崎浩幸（2019)「ルーブリックを活用した授業実践とパフォーマンス評価」

・国立教育政策研究所（2021)『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　高等学校外国語』

・谷戸聡子・中島雅子・堀　哲夫（2012)「ＯＰＰＡ を活用した高校英語の授業改善に関する研究－高校１年「関係詞」の単元を事例にして－」『教育実践学研究』No. 17，pp. 34-44.

One Page Portfolio Assessment for Your Speaking Test

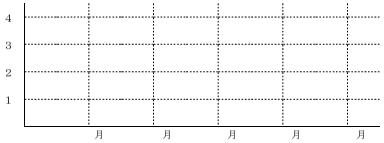
Class : _____**Number** : _____**Name** : _____

自己評価シート

Ⅰ．次の質問について答えてください。

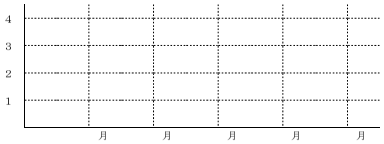
1．なめらかに話すことはできましたか。

4　ほぼ止まらずに話せた
3　時々止まるが話せた
2　止まってしまいもっとできた
1　うまくできなかった



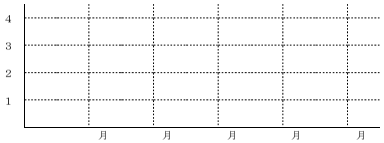
2．文法や発音を間違えることなく話せましたか。

4　ほとんど間違えを感じずにできた
3　２、３箇所間違えた
2　ときどき間違えた
1　たくさん間違えた



3．相手の目を見て話せましたか。

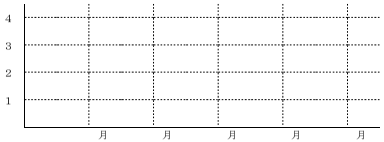
4　７、８割できた
3　半分ぐらいできた
2　あまりできなかった
1　まったくできなかった



4．Conversation Strategies を使うことはできましたか。

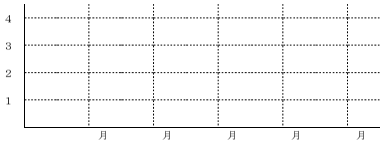
①　Rejoinders(Great!　I see.　Really?など)

4　３回以上適切に使った
3　２回適切に使った
2　１回しか使ってない
1　使ってない



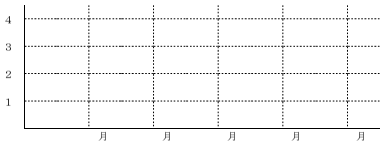
②　Fillers(Well…　Let me see…など)

4　３回以上適切に使った
3　２回適切に使った
2　１回しか使ってない
1　使ってない



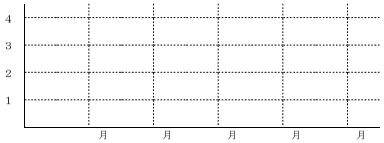
③　Shadowing(相手の言ったことをくり返す)

4　３回以上適切に使った
3　２回適切に使った
2　１回しか使ってない
1　使ってない



④　Follow-up Questions (質問を付け加える)

4　自分で考えた**適切**な質問が複数できた
3　自分で考えた**適切**な質問が１つできた
2　自分で考えた質問ができた
1　自分で考えて質問できなかった



Ⅲ．スピーキングテストに向けてどのような取組をしましたか。具体的に書いてください

月	授業内 授業外	月	授業内 授業外
月	授業内 授業外	月	授業内 授業外

Ⅳ．もっとこうすればよかったと思うことを具体的にたくさん書いてください。

月		月	
月		月	

Ⅴ．今年度４月から英語を話すことにどのような成長がありましたか。具体的にたくさん書いてください。

月		月	
月		月	

Ⅵ．感想（自由にたくさん）

月		月	
月		月	

付属資料２